

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1992300028		
法人名	社会福祉法人 寿真会		
事業所名	グループホームらくえん倶楽部		
所在地	山梨県中央市極楽寺745番地1		
自己評価作成日	令和 2 年 12 月 24 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 4 年 2 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺は環状道路も走り、中央高速にも近く交通も便利な立地条件にあり、田畑に囲まれ長閑な場所にあります。季節の花々や野菜等も中庭で育て、食卓へも運び入居者様と一緒に食事をしています。併設している特養がある事により、看護師も常駐している為、医療面でも直ぐに対応が出来、主治医につなげています。栄養士も法人内にいる為、献立を作成してもらい栄養面でも常に連携が取れているようにあります。職員は法人の理念をもとに、入居者様に寄り添い尊厳を守りながら日々楽しく笑顔で援助に努めています。入居者様もカラオケを楽しんだり、季節折々の壁飾りを作成し、コロナ禍で家族との面会も思うように出来ない今職員との楽しみを見つけてながら生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

●事業所では敷地内に家庭菜園を設け、入居者が水やり等の管理を担い、野菜の収穫をしている。入居者は自身が関わった野菜等が食卓を飾ることで、より食事が楽しみになり、生活に張り合いを感じられる取り組みがなされている。また、昼食時は、入居者と職員が同じ食事をしており、その日の食事の内容が共有されている。●グループホームと地域密着型特養が併設されていることで、何かあった際の対応について家族の多くが安心感を抱いている。●アンケートより、事業所の職員が生き生きと働いているという意見が、多くの保護者から寄せられた。事業所の姿勢が「笑顔」「元気」「和気あいあい」を大事にしており、それが日々の業務に反映されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づき、職員全員が実践できる様にホワイトボードに掲示し共有している。	法人では4月に、新規入職者に対して理事長から法人理念についての研修を実施している。また、事務局や医療等からも関連する業務についての研修会を3日間の日程で実施している。グループホームでは独自の目標をホワイトボードに掲げて日々確認しながら業務を遂行している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で交流はしていない。	グループホームは一戸として自治会に加入し、地区の防災訓練や河川清掃にグループホームの職員が参加して関係を築いている。 コロナの集団感染の経過を踏まえて、地域との交流はコロナの感染が終息しない限り控えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍なので、地域の方々との交流がなく、ここの一年貢献は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	開催出来た会議では、情報交換も積極的に行われ、そこで出た意見はサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、密にならないように時間をずらして実施した。会議の内容はスライドを用いて共有を図った。グループホームでのワクチン接種の方法について、嘱託医の往診によって実施されたことを報告した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症を考える検討会に参加し意見交換を行っている。	コロナ禍の中で際立った相談等はないが、オムツ使用に対する控除の有無、加算の有無について相談をした。また、家族からの問い合わせについて市に確認を取りながら答えた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の施設内研修に参加し理解し実践に活かしている。	法人の地域密着特養ならびにグループホームの管理者を対象とした委員会において研修会を実施している。身体拘束防止委員会では介護マニュアルに基づいてフローチャートを作成しており、分かりやすい対応が提示されている。過去において身体拘束の事例は皆無である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会で、法人内での現状報告をしながら注意し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を行うことで、理解し支援しているが、コロナ禍で研修が中止になる事が多く紙面などで理解し学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明に努め、家族の不安疑問点はその場で理解してもらえるようにしている。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホームらくえん倶楽部

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で家族会が開催出来ない為、ガラス越し面会や電話があった時に要望等は聞くようにしている。	コロナ感染の終息がみられた時期の1~2か月はガラス越しの面会から相談室での面会を実施した。また、ラインを用いたビデオ面会も実施してみたが画面が小さかったり、音声が届かなかったりで満足度に欠けていた。家族は直接話すことを選択しており、意見箱は活用されていない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長と面談する機会があり、意見や提案は伝える事が出来ている。ミーティング時にも意見などは聞き入れている。	3月頃に管理者より個別の面談を行い、異動の確認等を行う。また、業務内容に関する要望等についてはリーダーが受け付け、内容によっては管理者に上げ対応している。現場から上がってくる備品や物品の購入希望には、法人として速やかな対応がなされている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給・賞与もあり、年長勤務者への表彰も行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は現場に入っている為、日々の業務の中で力量を把握している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で、外部研修は参加できていないが、グループホーム協会のリモート会議に参加し交流する機会は今回あった。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自発的に要望を伝えられる入居者はいますが、殆どの入居者は、普段の会話の中から不安な事や要望に耳を傾けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新しい環境の中で安心して生活していける様に、不安なこと心配なこと困っている事を丁寧に傾聴し信頼関係を築くよう努力している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員が主となり、カンファレンスを行い、ニーズに合った対応が出来るように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を作る中で、入居者に寄り添いコミュニケーションを図り信頼関係を築いている。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	○コロナ禍で、直接顔を合わせる事は中々できないが、電話があった時やガラス越し面会に来苑された時に近況報告をすることで情報共有している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出する事が厳しい中で、以前出掛けた時の話や、写真などを見ることで思い出している。	以前は自宅や畑が心配とのことでよく外出していたが、コロナ禍の中では実施できていない。また、ボランティアの人も来られなくなったので馴染みの方と話す場面も設けられていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	独歩で歩行される方が、車椅子の入居者を気付かたり、声をかけてもらったり入居者同士も良い関係が出来ている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域密着型なので、顔を合わせる事もあり、利用時の関係を大切にしている。困ったことがあればいつでも相談にのれる様に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者が日々の生活の中で意向を把握し介護支援専門員に相談報告することで検討し支援している。	日々のコミュニケーションや表情、仕草から入居者の思いを汲み取っている。特に管理者やケアマネも現場業務(夜勤も含む)に従事しており、全員で入居者の思いを把握できる体制を築いている。	事業所の中には、通信機器の一つでMCS(メディカル・ケア・ステーション)を導入して、入居者に関わる事業所内外の関係者が情報共有できるシステムがあるようですので法人として導入の是非について検討願います。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から生活歴を提出して頂いたり、訪問調査で丁寧に聞き取りをして、今までの生活を把握するよう努力している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護ソフトを利用している為、ケース記録を見ることで現状把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を行うことで、現状に即した介護計画を作成している。	担当者をはじめ入居者を取り巻く関係者を中心に介護計画を作成している。計画の見直しは3か月に1度行うが、食事が摂れなくなってきた時は栄養士を交えた担当者会議を開催し、現状に即した計画の変更を行う。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ヒヤリハットを上げることで事故に繋がらない工夫も行い、介護計画の見直しに活かしている。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他部署・他職種と連携を図り、臨機応変な対応が出来る様に努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でボランティア活動が出来ていない為、地域資源の活用が出来ていない。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に説明し、本人家族が希望するかかりつけ医を受診してもらっている。往診の対応もしている。	家族には入居時に嘱託医の受診が可能であることを説明し、同意をいただいた方にはかかりつけ医から嘱託医への変更がなされている。グループホームの利用者の受診は基本家族が担うが、車椅子の入居者の受診は家族では困難なため、嘱託医による往診で対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設で特養がある為、常駐の看護師がいるため、いつでも相談できる体制にあり、主治医に繋げている。夜間も、オンコール体制が整えられている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医の病院が近隣にあり、病院関係者との信頼関係も厚く情報交換で来ている。相談にも直ぐに対応してくれている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を説明し理解してもらっている。重度化した場合や終末期についても、他職種や主治医と連携を図りチームで支援している。	入居時における契約の際に看取りの指針について同意を得ている。ただ状態の変化に伴い、その都度家族に説明して、主治医の指示の下でチームとして支援している。看取りの状態になった際は夜勤体制を強化し対応している。家族の希望があれば入居者に付き添えるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修もコロナ禍で中止になることが多く、訓練は行えていないが、急変時や事故発生時はマニュアルに従い対応している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人として、年二回の訓練を行ってきたが、コロナ禍で実施できたのは一回であった。	法人の防災委員会が計画し、広域と地域密着事業が別々の訓練を実施している。訓練内容は水害、火災訓練を実施しており、夜間の想定訓練では公休の職員も招集し実施している。事業所はハザードマップでは洪水危険区域に指定されているが、高台に立地しているため危険度は小さいといえる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内でも接遇について研修し、常に入居者様を優先に考え笑顔でいられる対応に努め言葉掛けを行っている。	法人としての勉強会は接遇を中心に実施している。排泄や入浴時におけるプライバシーは基本マニュアルを基に配慮がなされている。入浴介助では入居者の希望を基本に対応している。女性入居者への男性職員の介助の場面もあるが、入居者も慣れることで違和感なく実施できている。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中であったり、行動を確認することで本人の思いや要望を把握し、自己決定できるように関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで暮らしているが、職員側から働きかけ行う事も多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の着替え等は、自己決定で選んでもらい、出来ない方にもどちらが良いか選べるように働きかけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理したりできていないが、テーブルを拭いてもらったり、食後にお膳を引いてもらったりは出来ている。 職員は、入居者様と一緒に食事はしている。	食事は献立に沿って発注された材料を基にユニットごとに調理している。入居者にはボールに入れた野菜を和えてもらったり一緒にできる事は担ってもらっている。事業所敷地内で皆で栽培している野菜が食卓に並ぶこともあり、入居者の張り合いにもなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が法人内にいることにより、介護ソフトを確認しながら一人一人の状態を把握し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い口腔ケアをしてもらっている。 毎週木曜日は歯科医が介入していて、殆どの入居者が利用し航口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の声掛けを行いトイレ誘導出来ている。夜間帯にオムツを使用している方も、日中はリハビリ対応にしている。	現在9名中2名は日中、布パンツを使用している。また日中リハビリパンツの方は2名となっている。定時誘導を心掛け、1日中オムツの方はいない。トイレ誘導は拒否をする方もいるので、言葉がけを工夫しタイミングを見計らって対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防としては、PTによるリハビリ体操に参加したり、ユニット内でラジオ体操や散歩などで身体を動かしている。 主治医の指示のもと、三日排便がない時は薬で排便コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴で二人介助がどうしても必要な方は曜日を決めて職員を増やし対応しているが、他は毎日入浴できる体制にしているため個々の希望など聞きながら好きな時にいつでも入浴出来る様にしている。	入居者がその日の体調や気分が入浴できるように曜日は設けず実施している。入浴を拒否する方には、散歩等を行い気分転換することで入浴できる動機づけをしている。入浴に際しては一人ひとりが使いたいシャンプーや石鹸を用意して個別化を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員が生活習慣を共有することで、状況に応じた支援が出来ている。日中も食席で傾眠されていたら居室誘導し臥床してもらい、夜間帯もセンサーマットを利用しながら安心して休まれるように状況にあった対応をしている。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に内服説明書がユニット内にある為、疑問に思った時にはすぐに確認している。服薬支援は法人のマニュアルに沿って行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩に出かけたり、パズルをしてみたり、全員でカラオケを行ったりしている。コロナ禍で中々ドライブに出かけることが出来ていない。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるようにしている	コロナ禍で外出支援が出来ない。緩和された時には、個別にて苑周辺を散歩出来た。	令和3年度はコロナ禍の中で外出の機会を持つことはできていない。事業所内の敷地を散歩することで入居者の気分転換を図っている。桜の咲くころには、ドライブで車越しに桜を見学したり、人ごみのない場所では車から降りて桜見物ができるように企画している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や力量は把握しているが、家族からお金を預かり都度状況に応じて対応している。小銭を持っている方もいるが、使用できる場面が今のところない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方はいつでも利用できている。家族から電話があった時に電話口に出てもらい話す機会を設けている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットの壁を使い、季節感のある風景を工作し飾っている。家族からお誕生日のお祝いに鉢植えや花束が届けられたりするので、居心地よく季節感を楽しんでいる。	日中は自室で籠らないよう、共有空間にソファを設置して皆でテレビを見たり、カラオケをして楽しめるようにしている。午後は体操やレクリエーションを取り入れて、できるだけ居心地の良い空間になるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい方はマイペースで居室内で過ごされている。TVの前のソファに座り、入居者同士会話を楽しんでいる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には今まで使っていた家具等を入れてもらい、使い慣れたお茶碗・箸・湯呑みも使うことで家庭の延長として生活できる様支援している。	入居者の中には連れ合いの位牌や写真を飾っている方がいる。また、壁に孫の写真や若いころに書いた絵手紙を飾る方もいる。居室にミシンを持ち込み、袋を縫ってくれる方がおり、そうした環境作りにも配慮されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニットが施錠できる態勢ではあるが、ユニットから自由歩行し出られてしまっても、併設の特養のスタッフとも顔なじみなので迷うことなく生活出来ている。ユニット内や廊下等も段差がなく安全に過ごせている。			